

若狭町バイオマスタウン構想

バイオマスってなんだろ？

「バイオマス」は、動植物から生まれた再生可能な有機性資源（生物由来資源）です。代表的なものに家畜排せつ物や生ごみ、木くずなどがあります。

へー、いろんな種類があるんだー。



廃棄物系バイオマス

糖質資源（さとうきび、てんさい等）
でんぷん資源（米、いも類、とうもろこし等）
油脂資源（なたね、大豆、落花生等）



資源作物

畜産資源（家畜排せつ物等）
食品資源（加工残さ、生ごみ等）
林産資源（製材工場残材、建築廃材等）



未利用バイオマス

林産資源（林地残材）
農産資源（稲わら、もみガラ、麦わら等）



どうしてバイオマスを使うの？

バイオマスを積極的に使うことで様々なメリットがあります。

1. 地球温暖化の防止

バイオマスは、「カーボンニュートラル」な資源なので、温室効果ガス（CO₂）の排出を抑制します。

2. 循環型社会の形成

「資源使い捨て社会」から「資源リサイクル社会」への移行を促進します。

3. 戦略的産業の育成

バイオマスを利用した「新たな産業」が生まれます。

4. 第1次産業の活性化

「エネルギーや素材の供給」という新たな役割が期待されます。

地球環境にもやさしいのね



水が汚れてたから、湖にはアオコがいっぱい出てたもんね。



湖に発生したアオコ

あちこちの山に、枯れてしまったかわいそうな木がたくさんあるよね。



バイオマスを積極的に使うことで若狭町の自然を元気にするんだよ。それに山と川、湖、海は命の水の流れ（バイオマスライン）でつながってるから、山が元気になれば川や湖、海はもっと元気になるんだよ。



カーボンニュートラル...大気中の二酸化炭素の増減に影響を与えない性質のこと

若狭町で既に取り組まれていること

若狭町では、既に下のようなバイオマスの有効活用の取組を進めています。

エコクル美方の堆肥作り

エコクル美方では、畜産の排せつ物や生ごみ、剪定枝などから堆肥を作っています。



エコクル美方



堆肥の製造ライン



製造された堆肥

廃食油の回収

三方地域では、女性の会等が中心となり廃食油の回収を年2回程度行っています。回収された廃食油は、業者に回収され、石鹸や洗剤に精製されます。

町では、将来的に一部の公用車について廃食油で作ったディーゼル燃料を使用して走らせることも検討しています。



回収、保管されている廃食油

ペレットストーブの設置

ペレットとは、木くずなどを粉砕・圧縮してできる固形燃料です。今年2月、三宅小学校に、ペレットを燃料として使用するペレットストーブが設置されました。

町では、環境にやさしいまちづくりを進めるための意識づくりとして、公共施設へのペレットストーブ導入をこれからも行っていく予定です。



三宅小学校のペレットストーブ



ペレット投入部

これからこんなことに取り組んでいきます ~ バイオマスラインでつながれた起・承・転・環の物語

バイオスタウンプロジェクトでは、下に示しているイメージの流れで事業を進めていきます。

このプロジェクトの視点は、**起・承・転・環**です。“起・承・転・環”とは、水脈の源となる森林づくりから始まった取組が、河川、湖・海の保全へと移り、地域おこしへつながり、それらによる経済効果が森林づくりに還元される循環の流れを意味します。

起 まずは森林の再生から取組をはじめます

森林づくり：水脈(バイオマスライン)の源となる森林の再生

森林は、本町のシンボルでもある「水環境」の最上流部に位置しています。その森林の再生の取組を通じて、環境意識を高めていくと同時に地域環境保全の基礎づくりを進めていきます。

森林管理の仕組みづくり

森林づくりの資金を確保することで、継続的に取組を進めるための仕組みづくりを行います。

利活用の仕組みづくり

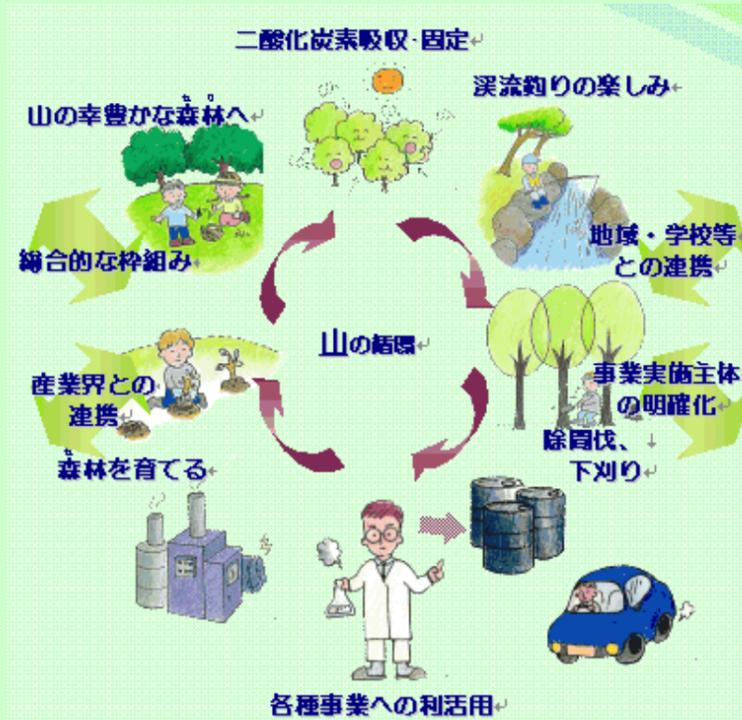
山から得られた林地残材を素材(マテリアル)やエネルギーとして有効に活用し、地域経済の活性化につなげます。

<マテリアル利用>

- ・素材(建材、敷材、粗朶、へぎ、機内食用什器(トレイ、スプーン)等)
- ・食材(イノシシ、シカ、魚腸骨等)
- ・炭、燃料(チップ、ペレット)等)

<エネルギー利用>

- ・直接燃焼による熱変換



町民の意識づくり

自然体験イベントや学校での授業などを通して町民みんなが自然に触れ、考える機会を作ることで、森林を守る意識を育みます。

- ・森林環境教育の推進
- ・住民参加に対する各種支援
- ・地場産材の積極的な利用
- ・森林情報の整備、提供



事業推進の体制づくり

事業推進の中心母体となる地域再生事業会社の設立や、民間活動団体(NPO等)との連携などを図ることで、効果的に事業を進めるための体制を整備します。

- ・地域再生事業会社の設立
- ・民間活動団体、ボランティア等の参画促進
- ・グリーン・ツーリズム等による町外からの参画推進



環

環境保全：自然資本への投資による循環の環づくり

“転”で形成された観光・交流を軸とする地域振興とリンクさせることで得られる資金を自然資本へ投資することで、循環の環の形成を図ります。



バイオマスラインをになう水環境

転

地域おこし：バイオマス利活用事業を通じて観光・交流を軸とした地域振興を推進

“承”で形成されたバイオマス利活用事業を通じて、観光客へ地域独自のサービス(地場産品、農業体験など)を提供します。それらの取組によって、事業推進・農林水産業の振興を進めるとともに地域外との交流ネットワークの形成を図ります。



承

河川、湖・海づくり：バイオマスラインでつながれた川・里・湖・海の水環境の低減

「山で得られた間伐材や梅農園から得られた剪定枝から粗朶を作り三方五湖の水質浄化に役立てる」

「三方五湖や海で獲れた魚の魚さいを用いて堆肥を作り、農地へ還元する」

このように“起”で形成された事業推進体制を活かし、町内で発生したバイオマスを有効に循環利用するバイオマス利活用事業に取り組み、川・里・湖・海の水環境の低減に努めます。

